



202

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年3月17日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

過労死問題に取り組む「旅する弁護士」

17日(日) = 1、3面



「過労死」という言葉が浸透する前は「急性死」と言われていたことをご存じでしょうか。1979年から過労死問題に取り組んできた弁護士がいます。松丸正さん(77) = 写真。

弁護士に依頼する前、相談者は事務所を訪れたり、電話で相談したりするのが一般的ですが、松丸さんの

場合は違います。「電話で話を聞くより、直接話を聞いたほうが早い」と、3日以内に自ら相談者の元に向くのです。

過労死・過労自死の専門として知られ、裁判などで全国を飛び回っています。このため堺にある弁護士事務所にいるのは、1週間のうち2日ほど。松丸さんは

自身のことをこう表現します。「旅する弁護士」と。

労働問題をテーマにする記者が、松丸さんに密着。移動時間も裁判資料に目を通し続ける姿を見ながら、弁護士としての「原点」を知りたくなりました。

労働社会を変えようと挑み続けるベテラン弁護士に迫ります。



日本のシェルター整備 17日(日) = 総合面



空襲警報が鳴り、ショッピングモールの地下3階の駐車場にあるシェルターに避難したウクライナの人々

ミサイルなどが飛んできた時に逃げ込めるシェルターの整備に日本政府が乗り出します。まず月内にシェルターの仕様についての指針をまとめ、将来的には地下鉄駅などのシェルター化を視野に入れて

いるようです。北朝鮮の核・ミサイル開発や台湾有事への懸念が背景にありますが、シェルターとはそもそもどんなものなのでしょうか。海外のシェルター事情も交えて解説します。



論点 幕引きにはほど遠い裏金問題

22日(金) = オピニオン面

政治資金パーティーをめぐる裏金問題の幕引きを急ぐ岸田文雄首相の「写真」に対して、国民の怒りは消えそうにありません。衆参両院で政治倫理審査会が開かれました。しかし、安倍晋三元首相が中止を表明したにもかかわらず、なぜ還流が継続されるかわからず、疑問は残ったままです。税金をきちんと納める国民の政治に対する不信は一層高まっています。カネと権力が直接結びつく危うい政治について考えます。

特集 ワイド 「バズる大使」に聞くヒットの秘訣

19日(火) = 夕刊2面

東欧の小国ながら、ジョージアの駐日大使ティムラズ・レジャバさん(35) = 写真 = の発信力は抜群です。「徒然なるままに」の自己紹介で始まるX(旧ツイッター)のフォロワー数は

32万人を超えます。流ちょうな日本語でユーモアあふれる投稿をする「バズる大使」はどんな人なのだろう。ヒットを連発する秘訣(ひけつ)は何なのでしょう、尋ねました。



竹橋の窓辺から
春はセンバツから
第96回選抜高校野球大会が18日開幕します。大会公式サービ

編集後記



毎日新聞